



## 発行所

関西配管工事業協同組合  
〒531-0071  
大阪市北区中津1-2-19  
新清風ビル7階  
TEL(06)6371-5905 FAX(06)6371-9544

## 編集者

事業部・教育情報部  
HP:<http://www.kankan-club.or.jp/>  
E-mail:jimu@kankan-club.or.jp

発行日  
平成31年2月12日

Vol.69



## 関 西 配 管 工 事 業 協 同 組 合 機 関 誌

## もくじ



● 「新春を迎えて」庄司真之理事長	2
● 新年賀詞交歓会開催	3
● 組合員・賛助会員懇談会開催	5
● 三団体懇談会開催	6
● 4団体協議会開催	7
● レッキスで講習会開催	8
● 配管コンテストに選手派遣	9
● 受検対策実技講習を実施	10
● 名古屋で日管連全国青年部会開催	12
● 「安全帯」関係法規改正	14
● 理事会 議事要旨	15
● 新組合員・新賛助会員	15
● 配管技能士検定実施	16

# 新春を迎えて

## 配管工事業界のイメージアップへ力を結集



理事長 庄司 真之

新年明けましておめでとうございます。旧年中は、当組合の諸活動に何かとご指導、ご鞭撻を賜り有り難うございました。本年も変わりませず、宜しくお願い申し上げます。

平成4年6月に関西配管工事業協会を設立し、諸先輩方の努力により、平成8年9月には関西配管工事業協同組合へと発展させ、順調に活動を続けて参りました。平成29年1月27日には「組合設立20周年記念祝賀会」を盛大に開くことができました。引き続き関係各位のご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。

当組合は、設立以来「技能の伝承と若手技能工の育成」を主目標に活動を続けて参りました。今後も引き続き「若手技能工の育成・教育」を柱に活動を続ける所存です。

建設業界最大の課題である職人不足に対応するためには、若い人を建設業界に入職させることが絶対に必要です。若い人が「夢と希望」を持って働く配管業界に変えること、親御さんが自分の子供を働かせたいと思う業界にすることが組合の目標であり、私の目標です。

若者に目を向けてもらうには、週休2日制に始まるいろいろな職場環境の大幅な待遇改善を行う必要があると思っております。非常に難しい問題

ですが、幸い建設業界は「2020年の東京オリンピック・パラリンピック」に向けて、受注が大幅に増加しております。

また、昨年の11月23日には大阪の悲願でもございました「2025年大阪・関西万博」の開催が決定をいたしました。これまで建設業界は東京だけが異常に忙しく、それ以外の地域は、東京に牽引される形での仕事量の増加、忙しさでした。「2025年大阪・関西万博」の開催決定で、今後大阪でも万博開催に向けての様々なプロジェクトが動き始め、仕事量が大幅に増加し、益々忙しくなってくると考えられます。

このことは、建設業界が変わっていくための、変化するための格好の追い風である思います。当組合は役員一同力を合わせ、この追い風のもと関係各位のお力をお借りし、配管工事業界のイメージアップをはかり、若い人や女性の入職者を増やす活動をして参ります。

これから30周年に向けて、今までの伝統を守りつつ、ITを活用した新しい事業にもチャレンジし、現場で汗する配管工が誇りを持って、一生を通して働くことができる、魅力ある業界づくりに邁進いたします。関係各位の更なるご指導、ご協力をお願い申し上げます。

# 賑やかに「亥年」スタート

## —夢と希望を持てる業界めざす—



年頭の挨拶を述べる庄司理事長

組合の新年賀詞交歓会は1月24日午後5時30分から大阪市都島区の太閤園で開催し、賑やかに新年の挨拶を交わして「亥年」がスタートしました。

新年賀詞交歓会には竹中工務店、大林組のゼネコン、関連団体、教育機関、組合顧問からの来賓、組合員、賛助会員など合わせて81名が出席し、小阪武司副理事長の司会で進められました。

年頭挨拶に立った庄司真之理事長は、「昨年は大阪北部地震、熊本地震、西日本豪雨、大型台風など自然の猛威にさらされた年であったが、今年は穏やかな年になってほしい。5月に幕あける新しい時代に合わせ素晴らしい時代を皆さんと一緒に作り上げていきたい」と述べました。この中で庄司理事長は、建設業界を含む産業界



円内は司会進行の小阪副理事長



来賓挨拶を述べる福原氏（左）と乾杯の発声を行う今西氏（右）



で働き方改革が進みつつある現状に触れ、「大阪での万博開催も決まり、建設業界には追い風となる。建設業が変わっていく絶好の機会であり、そのためにはゼネコンさんのリーダーシップに大いに期待したい。当業界は技能の伝承、技術の向上などこれまでの取り組みと併せ、ＩＴの導入など新しいものにも挑戦し、若者や女性

が夢と希望と誇りを持って働く業界をめざす」と抱負を述べました。

来賓紹介に続き、大阪空気調和衛生工業協会の福原保豊副会長が来賓を代表して「設備業界にとって担い手の確保・育成が最重要的課題。関西配管組合さんが技能の研修・講習活動に力を注いでいることに敬意を表するとともに、当



来賓挨拶する（左から）竹中工務店・小柳氏、大林組・種田氏、布施工科高校・植田校長

協会の配管技能コンテストに多大なご協力をいただきしております。引き続きご支援をたまわりたい。大阪での万博開催も決定し、これを関西復権の足がかりとして皆さんとともに進んでいきたい」と挨拶しました。大阪府中小企業団体中央会・連携支援部の今西修主幹兼労政調査課長の発声で乾杯したあと賑やかに交歓しました。

途中、来賓の竹中工務店大阪本店の設備部長・小柳真二氏と大林

組大阪本店の執行役員・種田裕氏が登壇し、それぞれ働き方改革に取り組む決意を示し、「（万博開催に向けて）建設業界は活況になろうが、一気に燃え尽きることなく、息の長い景気を期待したい」（小柳氏）、「生産性の向上は重要だが、現場の安全第一の原点は決して忘れてはならないし、若者が働き甲斐を見出す指導もしてほしい」（種田氏）と述べました。また、布施工科高等学校の植田篤司

校長は「キャリア教育の重要性が増している。産業の仕組みを伝えながら教育に当たりたいので業界の皆さん之力をお借りしたい」と述べました。

宴半ばには賛助会員が次々と壇上で自社PRを繰り広げ、自社紹介や新製品・新技術をアピールしました。最後に、玉川義光副理事長の音頭で威勢よく大阪締めを行い、「亥年」の躍進を誓いました。



賛助会員が登壇し自社PRを展開



玉川副理事長の音頭で大阪締め

## 組合員・賛助会員懇談会を開催

### 助け合いネットの利用促進で意見交換

第9回「組合員・賛助会員合同懇談会」を昨年12月6日に当組合事務局近くの三栄ビル会議室で開催し、市場動向や「助け合いネット」などについて情報・意見交換を行いました。

懇談会には組合員、賛助会員合わせて37名が出席しました。小阪武司副理事長の司会で進められ、最初に庄司真之理事長が組合員・賛助会員各位に日頃の運営活動に

であり、この追い風に乗って若い人たちがこの業界に入職できるよう力を合わせ、明るく希望に満ちた業界にしていきたい」と決意を示しました。

懇談会では出席者の自己紹介のあと、「組合ホームページの見直し」「青年部会の活動報告と助け合いネットの現況」を議題に意見が交わされました。

「組合ホームページの見直し」

「建設タウン」の概要を説明しました。斎藤部会長は「助け合いネットはガラケーで、建設タウンはスマホだと思ってほしい。最小限の機能をもったガラケーに多種多様なスマホの機能が加わり、さらに便利になる」と述べ、「便利なツールを利用してもらいたい」と職人不足を解消する助け合いネットのメリットを強調しました。

続いて、毛利氏から現在進行中の「Gembastation」の説明がありました。「Gembastation」は助け合いネットの信頼を得るために、現場の情報や状況を組合の中で共有することで



謝辞を述べました。「当組合は設立以来、技能の伝承と若手技能工の育成・教育を柱に活動してきた。昨今、建設業界の最大課題は職人不足である。若い入職してもらうことが大切であり、若い人が夢と希望をもって働く配管業界に変えること。また親御さんにも自分の子供をこの業界に入職させたいと思える業界にしていきたい」と意欲を示し、「2025年に大阪万博の開催が決定した。関西も東京に負けず非常に忙しくなるだろう。われわれにとっては追い風

については、組合HPの刷新に向けて青年部会で取り組んでいくことを申し合いました。具体策の一環として、ホーセック株の毛利正幸氏がHPを活用しての組合活動の情報提供や新規組合員の入会を促進していくことなどを提案し、「ご要望、ご意見を聞いて参考にしていきたい」と述べました。

「青年部会の活動報告と助け合いネットの現況」については、青年部会の斎藤竜久部会長が2018年の活動実績を報告したあと、「助け合いネット」の付加機能である

正確な情報を獲得できる機能です。毛利氏は「現場の状況を見える化することで、適正な判断や無駄な時間が省くことができる。組合活動の一環で情報を共有できれば会社の安定化や人材にもつながっていくと思うので近く実現したい」と述べました。これに対して「年間費はいくら?」「賛助会員のメリットはあるか?」など意見が出されたほか、会員がそれぞれの質問を出し合って白熱した意見交換が繰り広げられました。

# 第44回「三団体懇談会」開く 「助け合いネット」「建設キャリアアップシステム」 への取り組みで意見交換

当組合と近畿ダクト工事業協同組合(ダクト工事団体)、近畿保温保冷工業協会(保温保冷工事団体)で構成する「三団体懇談会」は昨年11月28日、大阪市北区鶴野町のグラン・アーモTAMAHIMEで第44回会合を開き、当組合が展開している『助け合いネット』と国土交通省が導入しようとしている『建設キャリアアップシステム』(別項に概要掲載)について情報・意見交換を行うとともに、今後の取り組みを模索しました。

会合には21名が出席。当組合から『助け合いネット』について「エピットでシステムを活用している」「これまでより機能を拡大中」などの現況が説明されたあ

「企業によっては知られたくない情報もある」などの要望意見も出されました。これに関連して「(配管以外の)各業界によって事情が異なるが、人材の手当てという機能だけでは各業界からの賛同が増えると思う」などの意見も出され、ダクト、保温保冷の両団体が持ち帰ってそれぞれの意見を集約して次回の会合に参加・不参加などの意向を持ち寄ることとした。

『建設キャリアアップシステム』については、「東京地区の設備業界でもまだ本格的に取り組んでいるとは聞いていない」「業界として積極的には取り組んでいない(保温)」といった現状報告が

アップシステムにも取り組まなければならない」という意見が出されました。また、これに関連して「職人の賃金を上げるために発注者サイドへの働きかけに尽きる。安値受注は厳に慎もう」「職人給与年800万円・1人工4万8000円をめざそう」といった意見が出されました。

## 【建設キャリアアップシステム】

建設現場を担う技能労働者(技能者)の高齢化や若者の減少といった構造的な課題への対応を一層推進し、建設業を支える優秀な担い手を確保・育成していくことをめざし、国土交通省が導入しようとしている制度です。技能者の現場における就業履歴や保有資格などを技能者に配布するICカードを通じ、業界統一のルールでシステムに蓄積することにより、技能者の待遇の改善や技能の研鑽を図ることをめざしています。システムの利用に当たり、技能者は本人情報(住所、氏名など)、社会保険加入状況、建退共手帳の有無、保有資格、研修受講履歴などを登録することでICカード(キャリアアップカード)が配布されます。

事業者は商号、所在地、建設業許可情報を登録します。現場を開設した元請事業者は現場情報(現場名、工事内容など)をシステムに登録し、技能者は現場入場の際、現場に設置されたカードリーダーなどでキャリアアップカードを読み取ることで「誰が」「いつ」「どの現場で」「どのような作業に」従事したのかといった個々の技能者の就業履歴がシステムに蓄積される仕組みとなっています。



と、意見交換しました。この中では、「これまで2日ほどかけて職人を探していたのが30分くらいで手当てできた」と活用メリットを紹介する意見や「あちらこちら電話して(人材手当が)ヒットするのを待つ煩雑さが解消できれば便利」と期待する声がある一方で「情報量が多くて複雑そうだ」「もっと使いやすくできないか」

多く出されました。「新年度までに事業者登録だけはしておこう」という段階などの見方が大勢を占めたほか、「今のところ、状況をみて世間の動きについていくしかない」という意見も出ました。

このほか、「(関西・大阪)万博の開催も決まつたし、専門工事業の地位向上を図るチャンスである。そのためにも建設キャリアア

## 4団体協議会を開催

### 「働き方改革」などで意見・情報交換

当組合、近畿ダクト工事業協同組合、近畿保温保冷工業協会と大阪空気調和衛生工業協会（大空衛＝サブコン団体）で構成する4団体協議会の第29回会合が昨年11月19日に大空衛事務局のある大阪市中央区安土町の新トヤマビル3階会議室で開かれ、建設業界の「働き方改革」「建設キャリアアップシステム」などを主要議題に意見・情報交換しました。

会合には4団体から12名が出席。最初に、『營繕工事における働き方改革の取り組み』状況及び『専門工事企業の施工能力見える化』の状況についての資料が事務局から示され、これに基づいて意見交換しました。この中では「現時点でダクト業界は人がまったく足りていない。仕事を減らしている状況。週休2日と記載しているが、建築業界はうまく機能していない」「最近は工期を2～3か月伸ばす現場が増えてきている。それに伴って経費などかさばり、サブコンは困っている」「設備だけではなく建築も厳しい」「人手不足で職人さんを確保したいが、なかなか戻ってこない」「人材の問題で所長に意見を言える建築の設備担当を現場に割り振れないと聞く」「週休2日を作る前に現実の工程を見直してもらいたい」「休んでしまうと単価を上げることが必要」「資材費が高騰し、資材の納入も2か月ほど遅れている」な



どの状況が報告されました。

また、施工効率化に関しては「一般的に建設現場は施工効率が悪いが、集合住宅を主とするゼネコンの現場では建築、設備を入れたプロジェクト方式を探っており、設備屋の意見を聞いてくれており、施工効率がよい」「働き方改革でいえば、ユニット化、プレファブ化を進めるなど現場でしない仕事を増やしているゼネコンもある。ユニット化が進めば職人がいらない施工方法など今後変わっていくかもしれない」などの意見が出されました。

『建設職人基本法に基づく「大阪府計画」（骨子案）』については事務局から資料説明のあと意見交換しました。この中では「一定の高所作業においては、フルハーネス型安全帯使用が義務化となるが、設備工事においても着用を強制されると、動きづらく仕事にならない」「朝礼が長すぎる現場もある。朝礼の時間短縮など改善の

余地がある」「あるゼネコンの現場では、朝礼を廃止している」といった意見が出されました。

このほか、『建設キャリアアップシステムの運用状況』については、「せっかく育てた技能工を取られたくないで会社で登録をきちんととしてあげたい」「シルバーとゴールドの差もよくわからない」「平等に技術を評価されていないのが問題」「個々の技能者の能力評価により、賃金アップにつながるとは思えない」「それぞれの工事団体として登録についてどうするのか発信する必要がある」「あるサブコンは、登録を推進しているという動きにある。協力会社にも要請している」「登録料など集めたお金の使い道を教えてほしい」「建設業の若手が育ってくれれば必要な制度である」「事業所登録を申し込んでいるが、遅れていて受理されていない現状」といった不安を訴える意見が多く出されました。

# レッキスで講習会開催

## ねじ切り実習と新製品知識学ぶ

組合は12月1日（土）に大阪府東大阪市のレッキス工業本社工場で講習会を実施し、受講者は1級配管技能士検定に向けた手動ねじ切りの実習、リケンの新商品知識習得とレッキスパイプマシンによる正しいねじ加工などを学びました。

講習会には27名が出席し、平成30年度の1級技能士検定に備えて12月開催の組合主催・受検事前講習（南大阪高等職業技術専門校）の予習を兼ねて行われました。

この講習会は毎回、レッキス工業の全面的なバックアップにより実施されており、今回で19回を数えます。この日も土曜休業日にかかわらず同社幹部・技術スタッフが出勤し、研修をサポートしていただきました。

冒頭、玉川義光副理事長（教育情報部会長）はレッキス工業側に感謝の言葉を述べるとともに、「1級配管技能士の資格を取り、



円内は挨拶する玉川副理事長

さらに上級の登録配管基幹技能者の資格取得をめざし、後に続く人たちを指導していただきたい。指導する私どもも頑張るので皆さんはその期待に応えてほしい」と激励を込めて挨拶しました。

講習では、技能検定に必須のパイプの手動ねじ切りについて、レッキス工業の担当者からレクチャーを受けながら実習しました。また、同工場に隣接する「レッキスミュージアム」でパイプマシンをはじめ、各種配管機器の歴史を学びました。

このあと、リケンの配管機器事業部大阪営業課・酒井浩史主査からハウジング継手の同社ブランド製品「トップジョイント」の商品説明が行われました。同継手は可とう式、固定式の2種があり、消防用配管から最近は設備用（空調冷温水・冷却水や給水・給湯）などにも次第に普及が広がっているものです。

また、固定式の新製品「R-0 II型」は施工管理性を向上（施工完了確認の容易性アップ）させた製品として注目されています。酒



手動ねじ切りの実地講習



レッキスミュージアム見学

井氏はこうした需要の推移と採用拡大の理由を製品特性と合わせて説明しました。

引き続き、レッキス工業からは

営業推進グループの大西規夫グループリーダーによる「正しいねじ接合と転造ねじ」、「不良ねじを作らない、ねじ加工機の使用」の詳

細な解説が行われ、最後にねじ加工の実演が行われました。このあと、質疑応答が行われて終了しました。



リケンによる作業要項の実地講習



レッキス工業による、ねじ加工実演

## 大空衛の配管コンテストに当組合員から選手派遣

昨年9月8日に東大阪市の府立東大阪高等職業技術専門校で開催された大阪空気調和衛生工業協会主催の第10回配管技能コンテストに当組合は選手を派遣しました。

コンテストは、次代の優秀な技能者の育成をめざし、全国の空調衛生設備団体の中で唯一、同協会が実施しているものです。

今回は現場の第一線で活躍する技能者27名（一般の部）、建築設備関連の学科を履修中の職業技術専門校や高等学校など5校から学生・生徒21名（学生の部）が参加して腕を競いました。

学生の部では彦根工業高校の女生徒・中村友紀菜さんが並みいる男子を横目に見事優勝に輝き、大阪府知事賞を受賞、一般の部では湖東総合システムの佐野哲広氏が

優勝し、大阪府職業能率開発協会会长賞が授与されました。

◇

「一般の部」上位入賞者は次のとおりです（敬称略）。

◇優勝＝佐野哲広（株）湖東総合

システム） ◇準優勝＝橋本祐希（東和管工株） ◇第3位＝定行良太（株）藤井設備 ◇第4位＝グエンテクワン（玉川設備環境） ◇第5位＝坂本竜一（株）藤尾設備工業所 ◇敢闘賞＝小桧山和哉（東和管工株）・今村歩（渕田工業株）・程野伸也（玉川設備環境）



一般の部上位入賞者と関係者（前列が5位までの入賞者）

# 技能士受検対策実技講習開催

## 2日間みっちりと実技研修



平成30年度の1級配管技能士検定（31年2月）へ向け、組合では12月15日(土)と16日(日)の2日間にわたり、大阪府和泉市テクノステージの大坂府立南大阪高等職業技術専門校で受検対策実技講習を行いました。

講習は、これに先立ってレッキス工業で実施した予備講習に続く本格的な実技講習で、当組合役員や熟練技能者が指導員となり、両日とも午前9時から午後4時半まで昼食をはさんでみっちり行われました。今回は1級配管技能士の



実技の前に作業要項の説明

受検予定者29名が出席し、鋼管、塩ビ管、銅管の切断や管継手との接続など受検本番さながらの講習に取り組みました。

初日の午前中は、オリエンテーションに続き、澄川史朗講師によ

る「材料の拾い出し・ペーパーテスト」の講習(座学)が行われ、最後に配管図から材料を拾い出して材料表を作成する練習問題試験が実施されました。

午後の実技講習では、まず玉川



鋼管ねじ切りの模範実技



銅管溶接の模範実技



材料取りのペーパーテスト

義光副理事長が受検に向けての心構えや実技の要項を説明しました。

この中で玉川副理事長は、組合が独自に作成した「実技テキスト」に基づき、作業の細かいコツ

などを交えて作業手順を説明しました。課題作品製作に先立ち、パイプを真っ直ぐ切断するため、その要項説明が行われ、それに基づいて各自が切断したサンプルを提出させて指導しました。

このあと、宮本泰仁指導員と山本浩二指導員が鋼管の手動ねじ切りと銅管の溶接の模範実技を行い、それぞれの作業の要点などを実技で指導しました。

引き続き、実技講習に移り、指導員が受講者の間を細かく巡り、

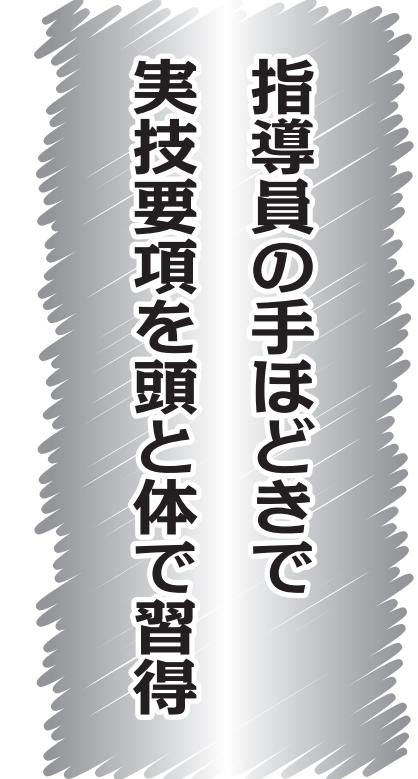
配管作業の指導に当たる中、受講者は切断、接合・接着、配管組立などで作業試験の課題作品づくりに取り組みました。

2日目は、午前中、前日の材料取り練習問題試験で及第点に達しない受講者は補講を受け、との受講者は前日の反省を交えて実技講習を受けました。

午後は受検本番と同じ時間で課題作品づくりに挑戦しました。受講者は3時間30分かけての模擬検定作品の製作に懸命に取り組んで完成させ、指導員から寸法採点、水圧テストを受けて反省点を洗い出し、受検本番に備えました。



## 実技要項を頭と体で習得 指導員の手ほどきで



## 日管連全国青年部会

### 名古屋に約70名が参集して開催

日本配管工事業団体連合会傘下の各地区団体青年部会で組織する日管連全国青年部会（部会長松原政敏氏＝関東団体）の第9回日管連全国青年部会が昨年10月26日に名古屋で開催されました。

今回は中部配管工事業協同組合青年部（森篤志部会長）の担当で開催されたもので、活発な交流を通じて青年部会活動の活性化への方策を模索しました。

▽ ▽

当日、全国各地から名古屋市の東京第一ホテル錦に集合した会員は北海道、東北、関東、中部、中国、関西、九州の7団体からオブザーバーなども含め約70名。1年振りの再会を喜び合あいました。

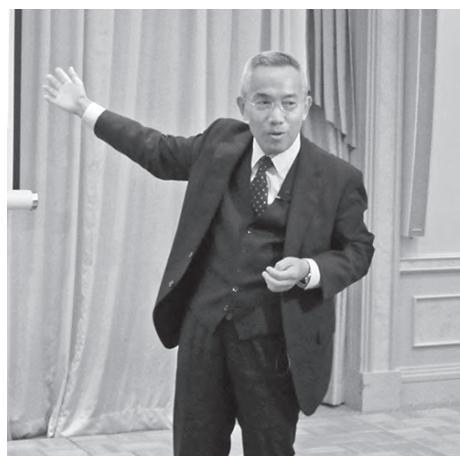


挨拶する松原部会長

しました。

次いで、日管連全国青年部会の松原政敏部会長が「この一年、日本各地で地震や津波、台風など災害が多発している。そんな中、全国からこれだけのメンバーが集まってくれたことに感謝している」と謝辞を述べ、「本日は実のある勉強会になるよう、各地区と交流を深めて未来の日本を担う配管工事業の中心人物になってもらいたい。ぜひ本日の成果を会社に持ち帰り、地域にも広げて有効に活用してほしい」と挨拶しました。

全国会議の前に各地区の部会長による会議が行われ、今後のスケジュールや参加人数の確認などを打ち合わせました。部会長会議のあと、中部団体の佃博明氏の開会宣言に続き、中部青年部会長の森篤志氏が開催地区を代表して挨拶



講演する佐藤氏



講演会のもよう



挨拶する関西団体の斎藤部会長と関西からの出席者

中部の森部会長から「以前から関西青年部が推進している助け合いネット、また業界全体の普及を目指して取り組んでいる事業継続計画（BCP）を取り入れたシステムの構築は、組合全体でも意見が一致している」との説明があったのに続き、講師に佐藤雅信氏（事務局代表）を招き、「事業継続計画（BCP）策定セミナー」を開催しました。

第1部では佐藤氏が「事業継続計画とは？ その本当の必要性と効果」をテーマに講演し、基礎的な部分からBCP対策が単なる防災対策に留まらず、会社を強くする取り組みであると解説しました。

第2部では実践編として、各グループに分かれて「BCP策定体験」を行い、参加者は意見交換しながら実用的な計画表を練っていました。

セミナー終了後、場所を移して懇親会を開催しました。席上、開催地区を代表して中部団体の親組合・中部配管工事業協同組合の窪田俊昭理事長が挨拶し、関東団体青年部会の山田栄二顧問が乾杯の音頭をとり、賑やかに交歓しながら

親睦を深めました。宴会半ばでは、今回の参加メンバーが順次紹介され、各地区の近況報告及び活動状況が発表されました。中締めの挨拶では次回開催地区である九州配管工事業協同組合青年部会の岡本直喜部会長から挨拶があり、引き続き連携を取りながら組合を盛り上げていくことを誓いました。

▽ ▽

#### ◇各地区団体の概況報告◇

【北海道】道内全体は先の地震災害で受けた被害による工場など対策工事が増えて、職人が足りていない。今後もこの状況は続くだろう。設備工事の概況は札幌市の4、5月は大型物件などで出足は

好調だったが、現在は減少している。人手不足が深刻で、組合で何らかの対策ができないか検討している。

【東北】職人不足によって請負規模が縮小傾向にある。若手人材が入ってこない。

【関東】オリンピックの工事が新国立競技場、プール施設など順次進んでいる。ターミナル駅（東京・渋谷）周辺の再開発が忙しい。活況が続くと思うが、オリンピック終了後が心配である。

【中部】とにかく忙しい。各地区で助け合いが必要。

【関西】地震や台風の被害が大きかった。忙しくなると人手不足が痛い。青年部ではHPの更新、助け合いネット、現場ステーションの情報共有を推進している。親会とも垣根なく取り組んでいる。

【中国】山陽側（岡山・広島・山口）は、岡山県のホテルに広島駅の再開発などがある。山陰側（島根・鳥取）は製造業の工場関係が業者も少ないので忙しい。

【九州】福岡、熊本、沖縄の駅周辺の再開発で忙しい。公共事業は耐震、改修工事がほとんど。人手不足に加え若手がいない。



懇親会を催して全国会員が交流

# 「安全帯」の関係法規改正

## 【墜落制止用器具の安全な使用に関するガイドライン】

### 高所作業はフルハーネスが原則

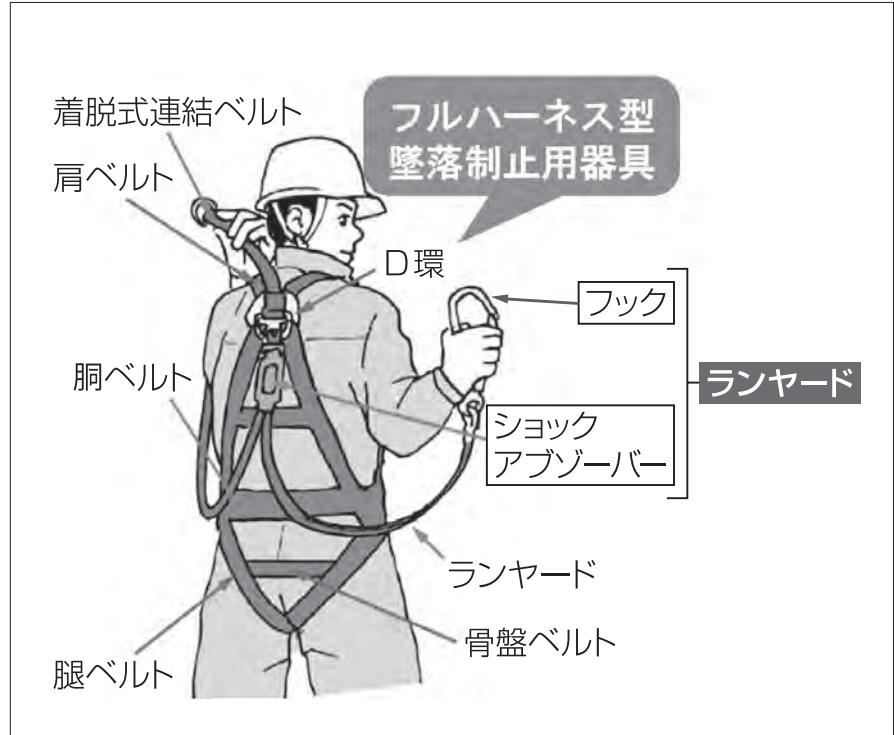
### 「安全衛生特別教育」は早めに

厚生労働省は昨年6月、労働者の墜落を制止する器具である安全帯の安全性の向上と適切な使用などを図るため、関係政省令の一部を改正し、これに基づいて墜落および転落による労働災害防止のより一層の推進を図るために「墜落制止用器具の安全な使用に関するガイドライン」を公表しています。

それによると、今回の改正では「安全帯」の名称を「墜落制止用器具」と改め、「墜落制止用器具」として認められる器具を胴ベルト型（一本吊り）とハーネス型（一本吊り）の2種としています（U字吊り用胴ベルトには墜落を制止する機能がないことから認められません）。

さらに、墜落制止用器具は改正法令に基づく「フルハーネス型」を使用することが原則となります。

また、作業床の設置が困難な場所でフルハーネス型の墜落制止用器具を使用する際に、「安全衛生特別教育」が必要となると定めています。「安全衛生特別教育」が必要な業務は「高さが2㍍以上の箇所であって作業床を設けることが困難なところにおいて、墜落制止用器具のうちフルハーネス型のものを用いて行う作業に係る業務（ロープ高所作業に係る業務を除く）」と規定され、これを行う労働者は学科4.5時間、実技1.5時間



の特別教育を受けなければなりません。

なお、この改正には経過措置が設けられており、2022年1月1日まで現行法令に基づく安全帯の使用が認められますが、該当する業務を行う事業所は早期の器具買い替えおよび特別教育の受講が欠かせないこととなりました。

今回の改正により、墜落制止用器具の買い替えが不可欠になりますが、従来使用してきた安全帯に比べて新規格対応のフルハーネス型墜落制止用器具は高額であり、ユーザーの経済的負担が大きくなります。こうしたユーザーの声を受けた厚生労働省は、補助金事業の実施を決めました。

補助金事業は、新規格に適合する墜落制止用器具に買い替えた企業を対象に、器具1セットあたりの実費（2万5000円が上限）の2分の1を補助するものです。実務委託先など具体的な事業スキームは決定ていませんが、制度活用の検討をお勧めします。

特別教育については、建設業労働災害防止協会（建災防）や中小建設業特別教育協会などが各地で開催していますが、現在たいへん混みあっており、受講しづらい状況となっています。

現場作業者の特別教育が必要な会員の皆様は、関連機関の開催状況をご確認のうえ、早期の受講をお勧めします。

# 理事会 議事要旨

## 【30年9月】————

- ①大空衛主催の第28回 4団体協議会出席報告
- ②日管連・平成30年度第13回定期総会・懇親会・理事会出席報告
- ③日管連からの依頼「西日本豪雨災害支援金」の協力報告
- ④一般社団法人大阪府建団連主催の第5回建築・土木技能体験フェア2018（技フェスタ）開催に伴う、協力団体としての名義使用の件報告
- ⑤平成30年度（第9回）日管連全国青年部会・懇親会開催に伴う、関西配管組合青年部会からの参加者報告
- ⑥国土交通省近畿地方整備局主催の「第1回近畿地方建設業社会保険推進・処遇改善連絡協議会」並びに「建設キャリアアップシステムの普及・利用促進に向けた説明会」の出席報告
- ⑦賛助会員からの組合脱退申し出の件
- ⑧新規組合員の加入申し込み諾否について
- ⑨第19回技術研修会開催日程と実施要領作成について
- ⑩第44回三団体懇談会開催に伴う、当番幹事団体としての開催会場選定と提案議題の検討
- ⑪組合ホームページ見直し作業に伴う、アンケート実施集計結果と今後の作業手順について
- ◇その他（大阪府立北大阪高等職業技術専門校の平成30年度〈10月～12月〉テクノ講座実施案内と訓練生募集依頼並びに北大阪技専校に入学案内）

## 【30年10月】————

- ①平成30年度認定職業訓練配管科1級技能士コース修了報告
- ②大空衛主催の第10回配管技能コンテスト開催結果報告
- ③平成30年度第1回近畿地区会場「登録配管基幹技能者講習」終了報告
- ④平成30年度技能検定1級配管受検対策実技講習開催要領作成について
- ⑤第9回組合員・賛助会員合同懇談会開催要領作成について

## 【30年11月】————

- ①国土交通省近畿地方整備局主催の「第1回近畿地方建設業社会保険推進・処遇改善連絡協議会」並びに「建設キャリアアップシステムの普及・利用促進に向けた説明会」出席報告
- ②新規賛助会員の組合加入申し込み諾否について
- ③平成31年度認定職業訓練配管科1級技能士コース実施計画作成について
- ④大阪管工機材商業協同組合主催の第19回管工機材・設備総合展OSAKA2019への後援名義使用と出展申し込みの検討
- ⑤平成31新年賀詞交歓会開催要領作成について
- ⑥組合ホームページ見直しに伴う新しいホームページの構成検討

## 【30年12月】————

- ①第19回技術研修会終了報告
- ②大空衛主催の第29回 4団体協議会出席報告
- ③第44回三団体懇談会出席報告
- ④日管連理事会出席報告

⑤「助け合いネット」から「建設タウン」へのシステム移行承認について

⑥第9回組合員・賛助会員合同懇談会運営順序の打合せ

## 【31年1月】

- ①平成30年度技能検定1級配管受検対策実技講習終了報告
- ②第45回三団体懇談会開催に伴う当組合からの提案事項の検討
- ③消費税率引き上げと、組合財政の健全運営を図るため、労災保険一人親方組合の事務手数料改定検討
- ④消費税率引き上げと、組合財政の健全運営を図るため、労働保険事務組合の事務処理規約のうち事務手数料の改定検討
- ⑤組合ホームページ見直し制作に伴う内容確認の承認について
- ⑥平成31新年賀詞交歓会の運営順序の打ち合わせ
- ◇その他（平成31年2月定例理事会の休会について）



## 【新組合員】————

### 協榮工業(株)

代表者 柳井 裕次氏  
〒538-0033  
大阪市鶴見区中茶屋1-2-32  
Tel.06-6915-3520  
Fax.06-6915-2881  
(平成30年10月1月付加入)

## 【新賛助会員】————

### (株)MCCコーポレーション

代表者 安西 孝寿氏  
〒578-0965  
東大阪市本庄西2-3-46  
Tel.06-6747-6921  
Fax.06-6747-6921  
(平成30年9月1日付加入)

# 平成30年度配管技能士検定実施

平成30年度の配管（建築配管作業）技能検定（後期）が2月2日（土）と3日（日）の両日、大阪府東大阪市の府立東大阪高等職業技術専門校（ものづくりカレッジ）で実施され、1級配管技能士をめざす当組合経由の申込者35名が技

能検定を受けました。

技能検定は1級・2級・3級の各配管技能士をめざす受検者が人数の関係で2日間、午前・午後に分かれて行われました。当組合は1級配管技能士についての認定職業訓練講座を延べ15日間（昨年4

～9月）開催したほか、レッキス工業での手動ねじ切り講習（12月1日）、受検対策実技講習（12月15・16日）などを実施して受検者を支援してきました。受検の際は当組合から庄司真之理事長、玉川義光副理事長、池成信夫理事（配管マイスター）、山中淳市事務局長が激励しながら見守りました。

## 事業主の皆さん、 労働保険に入って いますか？

労働者を1人でも雇っている事業主は労働保険に加入する義務があります。労働保険とは「労災保険」と「雇用保険」を総称したも

ので、労働者を1人でも雇用されている事業主の方は、労働保険に必ず加入しなければなりません。

### お問い合わせ先

◇労災保険制度については

労働基準監督署へ

◇雇用保険制度については

ハローワーク（公共職業安定所）へ

【労働保険事務委託団体・労働保険事務組合】

関西配管工事業協同組合

【労災保険・特別加入団体】

関西配管工事業協同組合・一人親方組合

安心



活気



やる気



## 働くみんなに 退職金効果！

中退共は、国がサポートする中小企業のための退職金制度です。

安全

国の制度だから安心

掛金の一部を  
国が助成します。

- パートタイマーさんや家族従業員もご加入いただけます。
- 他の退職金・企業年金制度等とのポータビリティも可能です。

詳しくはホームページを  
ご覧ください

有利

掛金は全額非課税

手数料もかかりません。

簡単

社外積立だから  
管理もラクラク

転職先でも引き継げる  
「通算制度」があります。

中退共

検索

<http://chutaikyo.taisyokukin.go.jp/>



独立行政法人勤労者退職金共済機構  
中小企業退職金共済事業本部

〒170-8055 東京都豊島区東池袋1-24-1  
TEL(03)6907-1234 FAX(03)5955-8211